

# 国見の輝き人

地域医療に貢献したい——

佐藤 梨夏<sup>りか</sup>さん（滝山）

看護師を目指すきっかけは、私の叔母が看護師だったことです。叔母が働く姿を見て、小学生のころから将来は看護師になりたいと思うようになっていました。

患者さんから感謝の言葉をかけてもらったり、患者さんが笑顔で退院していく姿を見られた時に、看護師としての仕事にやりがいを感じています。

常に患者さんの立場に立って、検査や処置、手術などを行うときにはその都度しっかりと説明を行うようにしています。“安全安楽”に入院生活を過ごしてもらえるよう、患者さんに寄り添った看護が提供できるよう常に心掛けています。

看護師としての目標は、今後も“安全安楽”な看護を提供できるように、知識や技術の習得に励んで、患者さんから信頼される看護師になりたいです。

新型コロナウイルスの感染が拡大していますが、今後も感染対策をしっかりと行って、みんなで一丸となって頑張って乗り越えていきましょう。

※安全安楽…事故や危険の無い環境で、不安や不快などの苦痛が無く、快適に治療や看護を受けられる状態



佐藤梨夏さんは、令和3年4月から公立藤田総合病院に入職。病棟での勤務を通じて、生まれ育った国見町の地域医療に貢献しています。

町長コラム



ま  
真こらむ

【第8回】

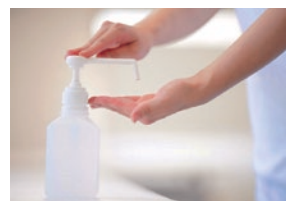
## 「手強い奴ら」

看護師が、医師が、泣く。「ひょっとして自分が…」と。休憩もままならない長い勤務が終わり、引継ぎの時間。ふと我に返ったとき、涙がこぼれる。それが皆に伝わる。

1月末から職員と入院患者に新型コロナウイルスの陽性が続いた公立藤田総合病院。入退院と新規外来の停止、予約診察も可能な限り電話処方に切り替える。院内に対策本部を立ち上げ、保健所と県立医大の指導を受けながら、院長はじめ全職員で抑え込みに挑む。事務職員たちも発生後に止まった清掃、リネン業者たちの業務を担う。「日赤も済生会もそうだった。コロナは怖い病気。医療者の体と心を食らい尽くす」と病院事務長。

一方、国見と桑折のワクチン接種は、予定どおり続ける。地域医療の中核としての矜持と使命感から。今の彼ら、彼女らを支えているのは、この2つなのだろう。院内現場の壮絶さを思いながら、どうか持ちこたえてほしいと心を贈る。

新型コロナウイルスは、細心を払っていても罹ることがある。アイツらは手強い。ならば私たちが行政と病院は、退かない、諦めない。



引地 真

※2月28日から通常体制での診療を再開しました